



清教学園 創立 75 周年

「あなたと共にいる神様」

2026 年 8 月

理科教諭 明石 康一

ヤコブはベエル・シェバを立ててハランへ向かった。とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。(中略) 見よ、主が傍らに立って言われた。「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」

(創世記 28 章 10～15 節)

ヤコブは後に「イスラエル」と呼ばれ、やがてイスラエル 12 部族の祖先となる人物です。ただ、この時のヤコブは孤独でした。ヤコブに何があったのでしょうか。

ヤコブはアブラハムの孫であり、イサクの息子です。双子の弟として生まれました。双子の兄はエサウといい、長子の権利(長男が家の財産や土地などを受け継ぐ権利)を持っていました。けれども、ヤコブはある時、一杯の食物と引き替えに長子の権利をエサウに要求します。お腹が空いていたエサウはヤコブに長子の権利を与えてしまいます。さらにヤコブは、母親のリベカと共謀して父親のイサクをだまし、祝福を受けることに成功します。(創世記 25 章と 27 章をお読みください。)

このようにして、ヤコブは長子の権利と祝福を得たのですが、そのことを知った兄のエサウから恨まれることになります。母親のリベカは「ヤコブがエサウに殺されるかもしれない」と考え、そのことをヤコブに知らせます。そしてリベカは「自分の兄であるラバンの家に行き、そこに留まるように」とヤコブに勧めます。

こうしてヤコブは、叔父のラバンの家へ向かう旅に出ることになります。ラバンの家はヤコブが住んでいた家から 700km くらい離れていました。かなりの日数がかかりますし、途中で強盗や獣に出会う可能性もあります。当時の長い旅は命をかけたものでした。しかも、この時のヤコブは 70 歳を越えていました。また、この時のヤコブには子どもがいませんでした。本当に孤独な旅だったのです。そのヤコブがある場所で野宿していた時、神様からの啓示が与えられます。それが最初に掲げた聖句です。



これはかつて神様が、祖父のアブラハムに約束された内容です。それは土地と子孫に関することでした。この中の「あなた」はヤコブです。「アブラハムに約束されたことは、ヤコブが受け継ぎ、祝福される」と、神様ははっきりとヤコブに示されました。さらに神様は「私はあなたと共にいる。決して見捨てない」と、ヤコブに約束されたのです。

繰り返しますが、ヤコブは祝福を受けるために父親をだまし、その結果、兄から恨まれ、家から離れて旅をすることになりました。もしも、私が神様の立場でしたら、ヤコブにこのように言うかもしれません。「ヤコブ、お前がこうなったのは、お前が悪いからだ。この旅の中でしっかり反省しなさい」と。けれども、神様はヤコブを責めたり、反省を求めることは一切されていません。それどころか、一方的にヤコブを祝福しているのです。

約 2000 年前に神様は、ご自身の愛するひとり子をこの世に送ってくださいました。それがイエス・キリストです。イエス様は約 30 年の生涯を歩まれました。イエス様は何ひとつ罪を犯すことはありませんでしたが、十字架刑となって殺されます。その十字架の上でイエス様は人間の罪をすべて背負われ、人間が受けるべき罪の刑罰を身代わりとなって受けられたのです。こうして神様は、人間が救われる道を備えてくださいました。このイエス様による救いは、人間が何か努力したから与えられるものではありません。これも神様からの一方的な恵みであり、祝福なのです。

神様はヤコブに対して「私はあなたと共にいる」ということ、そして「決して見捨てない」と約束してくださいました。これほどヤコブにとって励ましになる言葉はなかったことでしょう。そして今、イエス様を救い主として信じる者にも同じことを語っておられます。

「神御自身、『わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない』と言われました。」(ヘブライへの手紙 13 章 5 節)

人生という旅の中であなたは、ヤコブのように自分がしたことで苦しんだり、孤独になることもあるでしょう。けれども、あなたがどのような状況にあらうとも、神様はいつもあなたと共にいてくださり、あなたを見捨てず、守ってくださるのです。